

令和8年度 病害虫情報 第1号

麦類の赤かび病を 適期に防除しましょう！

- ・ 麦類の出穂期が、平年より早まる見込みです。
- ・ それに伴い、赤かび病の防除に適した時期も早まります。
- ・ 出穂状況を確認して、適期の防除に努めましょう。

1 小麦の生育状況：出穂期が平年より5～7日早まる見込みです。

- (1) 農業技術センターの令和8年産小麦生育基本調査では、小麦（11月14日は種「さとのそら」）の生育は平年に比べ早くなっています。
- (2) そのため、出穂期は平年より早くなることが予測されています。
 - ・ 前橋のアメダスデータを用いて予測した出穂期は、4月6日以降の気温が平年並の場合には平年より5日早く、平年より1～2℃高い場合には6日、3℃高い場合には7日早くなると予測されています（表1）。
 - ・ なお、4月9日発表の気象庁1か月予報では、平均気温が平年より高くなる確率が70%とされています。

表1 出穂期予測（4月6日実施）

4月6日以降の 平均気温	平年並 ²⁾	平年より 1℃高い	平年より 2℃高い	平年より 3℃高い
予測される出穂期	4月14日	4月13日	4月13日	4月12日
平年比 ¹⁾	5日早い	6日早い	6日早い	7日早い

1) 出穂期の平年は平成28年産～令和7年産の平均

2) 平年気温は、平成3年～令和2年の前橋地方気象台観測データの平年気温



2 赤かび病の防除適期について

- ・赤かび病の防除は**2回**行います。
- ・麦の種類によって防除適期が異なるため以下の表を確認してください（表2）。

表2 赤かび病の防除適期

	小麦	二条大麦	六条大麦
1回目防除	出穂期7～10日後	出穂期12～14日後	出穂期3～5日後
2回目防除	1回目の防除から7～10日後		

※ 出穂期とは、「ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日」

- ・令和8年産麦類では出穂期が早まると予測されるので、出穂状況を確認して適期の防除に努めましょう。

3 赤かび病の被害の特徴

- ・被害を受けた粒は茶色く枯れたようになり、その後、サーモンピンク色（鮭肉色）のかびが発生します（写真1）。
- ・かびからは人畜に有害なかび毒が生産され、出荷できなくなる恐れがあります。

次の基準を超えると出荷できなくなりますので、注意しましょう。

①食用麦：赤かび被害粒の混入割合が0.0%（1万粒に4粒）

※農産物規格規程（農林水産省）

②小麦：デオキシニバレノール（かび毒の1種）濃度が1.0mg/kg

※食品、添加物等の規格基準（厚生労働省）



写真1 小麦赤かび病
被害を受けた粒は茶色く枯れたようになり、
サーモンピンク色（鮭肉色）のかびが見られる。

- ★ 農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。

お問い合わせ先：群馬県農業技術センター 土壌・病害虫部 発生予察係

TEL：(0270)62-1059